

## 今号の INDEX

- ・ ~再生・細胞医療の産業化拠点~ 「ライフイノベーションセンター」供用開始！ ..... p 1
- ・ 京浜臨海部立地企業のご紹介  
 食用油の製造工場見学 日清オイリオグループ(株)横浜磯子事業場 ..... p 2
- ・ JR 南武線支線に新駅「小田栄駅」が開業しました！ ..... p 3
- ・ 京浜臨海部立地企業の取組の御紹介 -  
 「京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議」& 東燃ゼネラル石油(株)施設の強じん化対策 ... p 4
- ・ 「横浜・川崎 臨海部工場立地地図」を更新しました！ ..... p 4

## ~再生・細胞医療の産業化拠点~

### 「ライフイノベーションセンター」供用開始！

今後、大きな成長が期待される再生・細胞医療分野の実用化・産業化拠点として、神奈川県が公民共同で整備した「ライフイノベーションセンター」（以下、「LIC」という。）が、4月から供用を開始しました。

この「LIC」は、羽田空港の対岸に位置する川崎市殿町の「キングスカイフロント」内に整備されました。この地区では、ライフサイエンス・環境分野を中心に世界最高水準の研究開発から新産業を創出する「国際戦略拠点」の形成が進められており、既に実験動物中央研究所やナノ医療イノベーションセンターなどが立地し、今後も多くの研究機関等が進出します。

「LIC」の特徴は、研究開発から臨床の現場に至るフィールドをワンストップで提供することを目指している点です。

また建物は、地上4階建てで、4階では株ケイエスピーが入居企業を中心にベンチャー支援を実施します。2・3階は研究・開発フロア、1階は培養から加工・出荷も可能な設備を備えたフロアになっています。さらに2階から4階には、入居者が無料で使用することのできる会議室やラウンジが設置され、入居企業間での交流の場として利用できます。

現在（7月27日時点）は、18社が入居を公表しており、再生医療等ライフサイエンス分野への事業展開の支援を行う英国のスコットランド国際開発庁や、脊髄損傷を修復する再生医療と最先端ロボット技術を組み合わせた機能再生治療の共同研究などを始める慶応義塾大学とCYBERDYNE(株)などが入居します。

この「LIC」は、秋以降に本格的に稼働し、また2020年を目途に完成を目指している、殿町と羽田空港を結ぶ連絡道路が完成すると、交通の利便性が更に向上することが予想され、「LIC」と国内外の企業との連携に弾みがつくことが期待されます。



## 京浜臨海部立地企業のご紹介

### 食用油の製造工場見学 日清オイリオグループ(株)横浜磯子事業場

「かながわ京浜臨海部ニュース」では、京浜臨海部に立地する企業の取組や事業内容についてご紹介しています。

今回ご紹介するのは、様々な食用油を製造しており、磯子区で工場見学を実施しています日清オイリオグループ株式会社横浜磯子事業場です。同事業場は、1963年より操業を開始し、94年から食用油の歴史や製造工程が楽しめる見学施設である「ウェルネスギャラリー」を開設しました。この「ウェルネスギャラリー」や工場見学の話を中心に、日清オイリオグループ(株)の魅力について、コーポレートコミュニケーション部の北川聡さんと工場見学アテンダントの神谷さおりさんにお話を伺いました。

## 工場見学 ～食用油が出来るまで～

横浜磯子事業場の歴史について教えてください。

「横浜磯子工場の歴史は、埋立地を取得後、工場を建設し、1963年に操業を開始したところから始まります。土地の取得に際しては、当時の資本金に迫る金額を支出して行ったものであり、国際的な視野のもと、社運を賭けた経営判断だったと聞いています。この工場は、原料の荷揚げから搾油・精製・充填・出荷まで一貫して生産する日本最大級の製油工場になります。」

工場見学の内容について教えてください。

「まず、食用油ができるまでの全体の工程や日清オイリオグループの紹介などを、映像で15分ほど見ていただきます。その後、環境に優しい天然ガスで走るバスで、車内から工場内の各施設を見学いただきます。タイミングが良ければ海外から原料を運搬してきた大型船を間近で見ることができます。また、今年の4月から、昨年新設した食品工場内に設置した見学コースをご案内しています。ここでは、植物油が容器に詰められ梱包される様子をご覧いただけます。また、従業員が工場に入る際のセキュリティー装置や工場内に異物が入り込まないためにする工夫をご紹介します。最後に、展示施設である「ウェルネスギャラリー」で、食用油の原料や工場の歴史などをご覧いただけます。」



展示施設「ウェルネスギャラリー」

工場見学には1年間でのどの位の方がいらっしゃいますか。またどういった年齢層の方が多くですか。

「年齢層は様々で、年間1万人以上の方にご来場いただいています。近隣の小学校の皆さんには、社会科見学等でご利用いただいています。また、海外の方にも多く来ていただいています。中国やマレーシア等に拠点を持っていますので、海外の得意先の方がお越しになったり、原料である大豆や菜種の生産国であるアメリカやカナダなどからもお越しいただくこともあります。」

ご予約は、平日は10人以上の方で受付をしておりますが、夏季は「夏休み特別オープンファクトリー」として、少人数の方でも受付をしております。学生の方は、夏休みの自由研究などに活用していただけたらと思っています。」

ご予約の状況はいかがでしょう。

「予約開始は、ご希望日の3ヶ月前からになります。多数のお申込みをいただいております。おかげ様ですぐに満員状態になることが多いです。」

横浜磯子工場以外に名古屋・堺・水島に工場をお持ちですが、各工場で製造されている商品が異なったりするのでしょうか。

「横浜磯子、名古屋、水島では原料を搾取し、食用油とミール(油粕)を製造しておりますが、堺は搾油工程を持たず、精製工程以降を行っています。生産拠点ごとに特徴を持ち、最適な生産体制を敷いています。」

当事業場は、主に東日本エリアをカバーしている事業場になります。化粧品原料や大豆たん白などは当事業場でのみ製造しています。」

神奈川県や京浜臨海部、横浜に立地しているメリット等があれば教えてください。

「大豆や菜種などの原料を海外から輸入しており、大型船が着岸できることがメリットとなります。また、首都圏に立地していることも大きなメリットです。食用油の需要地は、やはり関東が一番になります。そこに工場があるということは、やはり物流面で強みになります。」

当事業場のPRやメッセージがあればどうぞ。

「消費者の皆様にとって身近な商品を扱っているため、多くの皆様に興味を持っていただけていると思っています。普段、皆様が使用している食用油が、どのような衛生管理、品質管理がなされていて、皆様に安全・安心をお届けするために、どのようなところに力を入れているかをご観覧いただきたいと思います。予約状況としては、かなり混雑しており、ご希望の日程・人数でご案内できない場合もございますが、駅からのアクセスも良好ですので、ぜひお越しいただければと思います。」



食用油が容器に詰められ梱包される様子

## JR 南武線支線に新駅「小田栄駅」が開業しました！



平成 28 年 3 月 26 日、JR 南武線支線の川崎新町駅と浜川崎駅間に JR 東日本初の戦略的新駅「小田栄駅」が開業しました。

新駅誕生は、平成 27 年 1 月に川崎市と JR 東日本横浜支社が、地域と鉄道の持続的な発展に向けて、連携・推進するため包括連携協定を締結したことが発端となります。この協定のテーマは、鉄道と沿線のブランド向上、地域と暮らしの安全・安心の向上、低炭素化・スマート化、公共交通の利用促進の 4 つのテーマに分かれており、その具体的施策の第 1 弾として「小田栄駅」の設置の検討を進めてきました。戦略的新駅とは、「鉄道と街、利用客との接点を増や

し、更なる利便性向上と利用拡大を図るため、新駅の設置について、事業性を多角的に検証し、地元自治体などと連携により具体化を図る駅」との意味合いがあります。「小田栄駅」が設置された場所は大型のマンションやショッピングセンターが建ち、人口が急増している地区であり、当該地区の利便性を向上し、まちづくりに寄与することが目的となります。

開業に合わせて、朝・夕の通勤・通学時間帯の列車の増発や運転本数の見直し、駅周辺の整備をするなど利便性の向上が図られました。当該地区にお越しになる際は、ぜひ「小田栄駅」を利用してみてはいかがでしょうか。

### 京浜臨海部立地企業の取組の御紹介

#### 「京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議」& 東燃ゼネラル石油株施設の強じん化対策

京浜臨海部に立地する企業、行政、関係団体で構成する「京浜臨海部コンビナート高度化等検討会議」(事務局：神奈川県、川崎市。以下、「検討会議」という。)では、「京浜スマートコンビナート構築」を目標像として掲げ、立地企業に共通する課題について様々な検討を行っています。

今回は東燃ゼネラル石油株川崎工場の工場長であり、「検討会議」の座長を務められている藤井文人さんに「検討会議」の展望及び東燃ゼネラル石油株で行われている施設の強じん化対策についてお話を伺いました。

#### 座長へのインタビュー

川崎工場に赴任されて 2 年半ほど経たれたと思いますが、川崎の工場や「検討会議」で変化を感じられた部分はありますか。

「まず一番に、川崎市はやはり発展している街だと感じます。特に殿町の「キングスカイフロント」は、赴任した当時からガラッと変わりました。大きな施設がいっぱい建設され、羽田空港も見えなくなってしまいました。コンビナート関連ですと、水素などの新しいエネルギーに移行していると感じます。

一方、コンビナート自体は、若干停滞気味と感じています。企業数はなかなか増えていかず、化学産業では海外に拠点を移すというニュースも聞きます。よって、「検討会議」座長としましては、今以上に「検討会議」の活性化に取り組んでいきたいと考えております。」

京浜臨海部コンビナートの強み等は何だと思えますか。

「何よりも首都圏に一番近いことです。川崎港や横浜港と海へのアクセスも抜群です。日本で一番の大都市圏にあるコンビナートであることから、京浜臨海部のコンビナートの活気が日本全体の元気に繋がると考えています。」

「検討会議」に求めていること、または展望等ありましたら教えてください。

「「検討会議」は各所から大変期待されていると感じています。川崎市や横浜市などの方々とコンビナートの話をしても、必ずこの「検討会議」が話題に出ます。「検討会議」がコンビナート活性化させるための引き金となることは間違いなく、今以上に活性化に繋がってほしいです。企業間の連携のチャンスはまだたくさんあると考えています。」



今回インタビューさせていただいた藤井文人工場長

話は変わりますが、東燃ゼネラル石油(株)川崎工場では、施設の強じん化対策のなかで、トラックへの給油施設を新設されましたが、ポイント等あればお願いします。

「資源エネルギー庁の「石油供給インフラ強じん化事業」の一環として建設したものです。首都直下型地震が起こったときでも、西日本の製油所や海外から石油製品を受入れ、陸上出荷するための第一弾の出荷設備となります。ですから首都直下型地震が起きても液状化現象が起きないように地盤改良の対策を取っており、耐震化も行っています。また、想定されている以上の津波にも備え、計器類を下に置かず、すべて屋根の上に置いています。計器類を上置くことは、ドライバーの安全を確保することにも繋がります。

「今後は、石油製品を運搬する船の受入れ桟橋の強じん化対策も行い、受入れから出荷まで一連の流れで強じん化していきたいと考えております。」

読者に対して川崎工場のPR やメッセージ等お願いします。

「当製油所では、非常用発電設備を備え、停電になっても給油施設は稼働できるようになっています。エネルギーの安定供給を通じて、持続可能で活力ある経済・社会の発展に貢献することを目指します。」



新設のトラック給油施設

### 新設のトラック給油施設のご紹介

- サンドコンパクション工法
- 液状化現象の対策。1.5m～2m位の砂を固めた杭をターミナル内に3000本打ち込んでいます。震度6強にも耐えられる想定になっています。
- レーン数
- ターミナルは24レーン。従来30分程掛かっていた給油時間が20分程でできるようになりました。
- 油の種類
- 扱っている油種はガソリン、軽油、重油、灯油、ジェット燃料の5種。混雑を避けるため、油の種類によってレーンを分けています。

## 「横浜・川崎 臨海部工場立地図」を更新しました！

神奈川県・横浜市・川崎市で構成する京浜臨海部再編整備協議会が発行している「横浜・川崎 臨海部工場立地図」(以下、「工場立地図」という。)が、このたび平成28年4月現在の状況を反映したバージョンに更新をしました。(前回の更新は平成25年3月)

この工場立地図は、京浜臨海部の活性化を図ることを目的に発足した京浜臨海部再編整備協議会の広報活動の一環として作成しているものです。主な工場・研究機関のほか、主要な道路や鉄道、用途地域の指定状況など、京浜臨海部の状況が一目で分かるようにまとめられています。地図を眺めていると、大規模な工場や最先端の研究機関が集積していることがよく分かり、京浜臨海部が名実共に日本経済のエンジンの一翼を担う地区であることが実感できると思います。

今回の更新では、立地企業を最新の状況にするとともに、表紙や地図内の凡例もわかりやすく変更を加えました。

工場立地図は、神奈川県地域政策課及び川崎市臨海部国際戦略本部臨海部事業推進部にて、1部400円で販売しております。購入ご希望の方は、下記までお問い合わせください。



### 編集・発行・問い合わせ先

神奈川県政策局自治振興部地域政策課 担当：大橋 〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話 (045)210-3255 ファクシミリ (045)210-8837

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/div/0602/>

(お問い合わせは、こちらのホームページ下部の「お問い合わせフォーム」からお願いします。)